



こちらの茶トラ柄が見習い看板猫とら次君です。本日撮影のため首にパンダナを巻いてもらったそう。キマってます。



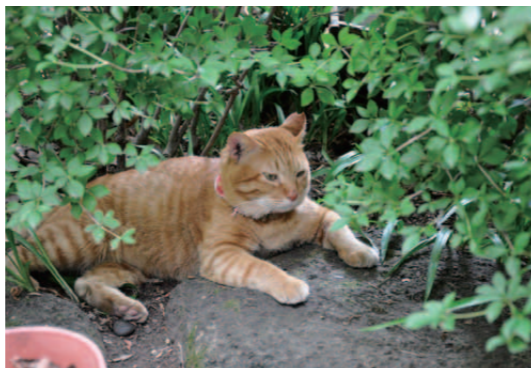
ご飯は10時と15時の2回。とら次君は入り口付近に多いことが多いようですが、たま君にも会いたいなら、その辺りのご飯時間を狙って訪問すると良いでしょう。



店外のオープンスペースはワンちゃんの同伴もOK。左の「冷やしむじな」は、きつねとたぬきを合わせた人気メニュー。11月よりスタートする限定メニュー「ゆず切り蕎麦」もオススメです。



ご飯を食べ終え、のびをしてから再び出勤するたま君。店の敷地と店の近辺をパトロール。



お店の前でゴロゴロと寝転がっていたのは、もしやお客さんの呼び込みのつもり？ 食事を済ませたら、また職務に戻ります。

東京・深大寺  
大師茶屋

# ウワサの看板猫

新人さんも加わり2匹になった看板猫。

スタッフやお店を訪れるお客さんを癒して、皆に福を招き入れてくれる、可愛い看板猫たち。アナタの住む町にあるお店が紹介されているかも!? 近所のお店を見つけたら、さっそく会いに出掛けてみよう。



## 深大寺散歩

由緒あるお寺と、名物の蕎麦、参道に並ぶお店の数々。神代植物公園も隣接しているので、四季を感じつつ1日たっぷりと遊べます。



朝トラ「ゲゲゲの女房」の撮影が行われたことでも注目されている深大寺は、由緒ある寺や名物の蕎麦、都内から自然に囲まれた環境で人気の観光スポット。手打ち蕎麦の「大師茶屋」は、そんな深大寺の参道に面したお店。猫の夕食時を狙って取材に訪れた今回、店の敷地に入ると、店先に寝転ぶ猫の姿が真っ先に目に飛び込んできた。出入り口に人が行き交うのを気にする風もなく悠然と振る舞う彼は、今年の2月にフワリと現れ、大師茶屋スタッフ(?)の仲間入りを果たした看板猫見習い、茶トラのとら次君。

猫が多いことでも知られている深大寺。大師茶屋では、スタッフの皆が猫好きということもあり、昔から迷い込んできた猫を保護しては、朝夕の食事から去勢手術、さらに寝床の用意まで行ってきたのだそう。現在は4匹の世話をしている、朝夕の食事には揃って集まってくるということですが、うち2匹は警戒心が強くお客さんの前にはあまり出てこないのだとか。実は本当の看板猫は、4匹の中でもっともキャリアが長いフチ猫のたま君なのですが、とら次君がずっと店先にいるため、とら次君の方が看板猫っぽくなってしまっているとか。

「とら次が営業部長で、たまが社長です」スタッフさんのそんなセリフが2匹の関係を表している。

景色を楽しめる屋外のオープンスペースも用意されているので、深大寺散策の際にはぜひ美味しいお蕎麦と可愛い看板猫のいる大使茶屋に足を運んでみてください。



大師茶屋  
TEL:042-482-5407  
調布市深大寺元町 5-9-10  
営業時間 10:00 ~ 17:00  
(1月・2月は10:30 ~)  
定休日 水曜